

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年7月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200429
法人名	医療法人 同潤会
事業所名	自立の家
所在地	鹿児島県薩摩川内市大小路町51番23号 (電話) 0996-22-8611
自己評価作成日	令和4年6月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年6月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な住宅街の中にあり、近隣には認定こども園、公園、スーパーがあります。静かながらも利便性がよく子供たちの声が聞こえる恵まれた環境を有しています。また、母体でもある永井病院と隣接しており、定期的な訪問診療や定期検査など医療連携体制を整え、利用者様の体調管理を行っています。他に同一法人には老人保健施設、デイケア、在宅介護支援センター、生活支援ハウス、小規模多機能事業所、有料老人ホームなどがあり、各事業所と連携を図りながら皆様が安心して生活できる環境となっています。

コロナ禍のため、地域との交流は中断されていますが、以前は茶飲み会やいきいきサロン(自治会主催)等に参加し、地域との交流を図っていました。また、近隣の認定こども園との交流もあり、運動会や秋祭りなどの行事縁寛などを行っています。

毎月様々な災害(地震・水害・火災等)を想定した避難訓練を実施しており、年に1回は地域住民の方々に参加していただき火災避難訓練を行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体医療機関に隣接し、同敷地内に同法人の老人保健施設、デイケア、在宅支援センター、生活支援ハウス、小規模多機能ホーム等、医療・福祉施設があり、災害時をはじめ、様々な協力関係が構築されている。

- ・母体医療機関は定期的な訪問診療、訪問看護や、緊急時の24時間医療連携体制が整っており、重度化等の場合も本人や家族の意向に沿って、適切な医療やサービスが受けられるように法人内での連携も密である。

- ・地域住民とは自治会に加入しており、コロナ禍の為に行事は自粛している。終息すれば、さまざまな繋がりを深めていく計画である。

面会の制限があるが事前予約で家族の面会や電話・手紙・「自立の家だより」の送付等、家族との関係継続に努めている。

- ・管理者や職員のコミュニケーションも良好で職員の資格取得や研修に努め、資質向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念の唱和を行い、理念に沿ったケアの実践ができるように努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた当事業所独自の理念を、玄関に掲示し、パンフレット・重要事項説明書・便りに記載している。毎朝礼時に唱和し、理念に沿った支援に取り組んでいる	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は自粛している。幼稚園児が花の日などに訪問してくれるなどの交流はある。	自治会に加入しコロナ禍で地域行事等は自粛している。幼稚園児の訪問があり、職員が代理でプレゼントを受け取り、工夫しながら交流継続を行っている。終息後は地域交流を再開する。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議や地域との交流行事があった頃には認知症高齢者について理解を深めていただけたような取り組みを行っていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、運営推進会議は書面開催となっており、意見交換などができていない状況である。	会議は、定期的に行っている。コロナ禍のため書面会議で、資料を委員に送付し、委員からの意見等は電話で聞き取っている。今後、委員の意見を添付していく計画である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営について疑問や相談があるときにはその都度市役所担当者に相談し助言や指導をいただいている。市からの連絡事項などはメールで配信されている。	市の担当者とは、窓口に行ったり、電話やメールで実情や取り組みを報告し、助言を得るなど連携を図っている。市連絡協議会の研修はメールでの資料送付で、市の研修はオンラインで行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内での研修や身体拘束廃止委員会を中心とした会議を行い、身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。また、切迫性・非代替性・一時性の要件に当てはまる利用者に対しては、家族への状況説明を主治医から行い、記録すると同時に、拘束解除に向けた取り組みを行っている。	法人の研修は年2回ある。身体拘束廃止委員会があり、マニュアルを基に3ヶ月に1回勉強会を実施している。言葉遣いについては職員同士で注意したり、管理者がその場で注意している。安全の為、拘束が必要な場合は主治医から家族へ説明をして記録に残している。日中の玄関の施錠はしないで、拘束のない支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修や事業所内での勉強会を行い、身体的虐待だけではなく、言葉の暴力や心理的虐待がないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会等に参加し、制度の理解に努めているが、制度が複雑で理解不足のため、継続して学ぶ必要がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時には重要事項説明書を用いてご家族に説明し、同意書・誓約書に署名捺印をいただいている。また、法改正などにより加算や利用料金等に変更がある際には文書にてご家族に通知し、書面にて同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの要望や希望については、日常生活の中での会話から伺い、管理者、事務長、理事長等に相談するなどして対応している。ご家族からの要望や意見は電話や面会時に伺い、同様に対応している。	利用者へは日常の暮らしの中で思いを聞いている。家族の意見は面会時や電話・メールで聞いている。2ヶ月毎に便りを送付しその折に要望を聞き、意見や要望は職員で話し合い運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の業務ミーティングや日々の申し送り等で各職員の意見を管理者に伝えている。管理者は事務長や理事長へ報告・相談し、改善に努めている。	職員は日々の業務の中や月1回の職員会議で意見や要望を聞いている。ケアに関する事が多い。個人的な相談は管理者へ相談している。希望する働き方を支援し、職場環境改善に努めている。職員からの要望で故障した食器乾燥機のため、新品を購入した事例がある。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得やスキルアップにつながるよう法人内での研修会などが行われている。また、外部研修への参加も促している。法人内では資格や経験に応じた給与体系が確立されている。年2回の健康診断が実施されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で各種研修会が行われており、毎月参加している。管理者は必要に応じて個別に面談等を行って、各職員の能力に応じて助言や指導を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍で外部研修の機会が減少しており、他事業所との交流はできていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や入所前の生活状況については本人や家族、関係機関から情報を収集を行っている。また、本人とは日常生活の会話やコミュニケーションを通して早期に信頼関係が構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所説明時に家族の思いや要望などを聞き、助言や提案を行っている。また、面会時などに生活状況を職員から積極的にご家族に伝えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や面談時に入所後の生活について十分に説明したうえで、複数の提案を行い、本人・家族の思いに沿ったサービスの提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、一方的なケアの提供ではなく、利用者から多くの学びを得ていることを認識するよう心掛けている。共同生活する利用者同士は、顔なじみの関係性が構築できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時や電話をするなどして関係性が保たれるように支援している。コロナ禍で面会や家族会などの機会が減少しており、家族との関係性が希薄になっている現状もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍において、外出の機会が減少している。ホームでの生活が安心して快適に過ごせるように支援している。	家族面会は事前に予約を取り、体調管理を行い、短時間の窓越し面会を行っている。電話や手紙・広報誌送付等で関係性を継続している。訪問美容は希望者が多い。コロナ終息後は、地域行事の参加も再開する計画である。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で顔なじみの関係性ができている。テーブルの座席配置や共同作業を通して、利用者間での良好な人間関係が構築できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は同一法人内の関連施設に入所されることが多く、情報提供や情報共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や表情・行動などからご本人の意向や要望を汲み取り、できるだけ意向に沿ったケアや生活環境が提供できるように支援している。職員間での情報共有を行い、ご本人の意向を周知するよう努めている。	日常の会話の中から話を聞き本人の思いを把握するようにしている。部屋に入った時や入浴時等、1対1になった時に意見や要望を聞いている。意思疎通が難しい利用者には、動作、仕草、行動等で把握したり、家族に聞いたりして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族や以前利用していた事業所などから情報を収集している。収集した情報は記録等により周知できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課に沿った活動への参加を促しているが、個人の体調や心身の状況に応じて柔軟に対応している。ご本人のできること、できないことは職員間で情報共有し、支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の様子や言動などからご本人の意向を把握し、介護職員をはじめ、主治医や多職種と連携しケアマネジャーを中心にプラン作成を行っている。	本人の意向や家族からの要望等を聞き、主治医の意見を参考に職員で話し合い、介護計画を作成し、本人や家族の了解もらっている。モニタリングは毎月行い、6ヶ月毎に状況を見ながら見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録にはケアプランの短期目標が記載されており、毎日の様子、毎月の評価を記録している。その他、申し送りノート等を活用し、利用者の変化やケアの注意事項等の情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向や要望があった際には管理者や事務長、理事長等の意見を聞きながら柔軟な対応ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会に加入し、地域の方々との交流や情報収集を行っている。ほかに、市役所からの広報やメール配信などで地域資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である永井病院がかかりつけ医となっており、訪問診療や定期検査などの医療が受けられる体制が整っている。また、日々の体調変化に対しても随時報告・相談し、早期発見・対応に努めている。	入所時にかかりつけ医を聞き、受診支援をしている。月2回訪問診療があり、週1回健康管理のために訪問看護の訪問がある。歯科衛生士の訪問もある。緊急時の24時間医療連携体制があり適切な医療を受けている。他科受診は原則家族の同行になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、口吊の関わりの中にとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である永井病院と医療連携体制が確立されており、随時報告・相談を行い、助言や指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供を行い、必要に応じてカンファレンスに参加している。法人内の医療連携室や相談員とも連携し情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・終末期における指針を説明し、書面にて同意を得ている。また、実際に病状が悪化した時にはその都度主治医から家族に説明があり、意向の確認や意向に沿ったサービス提供ができるように努めている。	重度化や終末期の指針を契約時に選択肢も含めて説明し同意書をもっている。状態の変化により家族と主治医が話し合い、意向を確認しながら希望に沿って方向性を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応については法人内での研修会に参加し知識を得ている。また、事業所内でも事故発生時や急変時の対応について話し合い、連絡体制など、手順の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月1回様々な災害を想定した訓練を行っている。年に1回は消防署、地域住民の方々に参加していただき、火災避難訓練を行っている。特に夜間は職員の数も少なく、実際に災害が起こった時の連絡体制や避難体制は課題が多い。</p>	<p>避難訓練は消防署の指導の下、年1回、自主訓練は地震・水害・火災等、それぞれ昼間想定で実施している。原発避難訓練は市の主催時に参加している。原発の受け入れ先は霧島の施設である。コロナ禍の為、地域住民の参加は自粛している。防災設備点検は業者が定期的に行っている。滑り台での避難訓練の実施も検討している。災害時の水・食料等の備蓄は全て老人保健施設にある。カセットコンロはホームに準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>日常生活すべてにおいて、声かけやケアを行う際には、相手が人生の先輩であることを常に意識し、個人の人格や尊厳を損ねることがないように心掛けている。職員間でも不適切な言葉かけが行われないようにお互いに注意できるように努めている。</p>	<p>法人で年1回研修会を開催し、参加している。居室内へ入る時のノックやトイレへの声掛けに配慮している。申し送りは事務所内でドアを閉めて行っている。呼称はさん付けで呼んでいる。毎日の着がえ時に着たい衣服を選ぶように声掛けをしている。誇りやプライバシーを損ねないケアに留意している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>会話や動作、表情等からご本人の意向を捉え、複数の提案から自己決定ができるように支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日の日課や活動時間は概ね決まっているが、各個人の体調や気分に応じて無理なく参加できるように支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>季節に応じた衣類は家族に依頼し、衣替えを行っている。入浴準備をする際などにはご本人と一緒に着替えを選ぶなどしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は管理栄養士が立て、調理は法人内の厨房で行っている。事業所では盛り付け、配膳を行っている、適温適食で提供できるように努めている。管理栄養士は栄養指導やミールタウンにて利用者の食事風景や摂食状況を把握している。	ご飯とみそ汁は施設内で準備し、おかず等は法人の厨房で作った食事が運ばれてくる。盛り付けや配膳をしている。行事食や誕生食は厨房で準備している。栄養士が時々訪問して食事の様子を確認している。利用者の、台ふきやおぼん拭き等と一緒にやっている。菜園で季節野菜の収穫を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がカロリー計算を行い、病状や体調に応じてバランスよく食事ができるように支援している。食事摂取量は毎食記録している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の指示を受けた歯科衛生士の指導・助言のもと、毎食後に口腔ケアを行っている。月に2回歯科衛生士の訪問がある。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導や声かけを行っている。食事や活動の前後にトイレに行く時間を設けている。パット類は個人の尿量等の応じて使い分けている。	排泄チェック表により、個人の排泄パターンを把握して時間ごとのトイレ誘導を基本としている。夜間オムツの利用者がパットのみになったり、パットの交換数が少なくなった等の事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や管理栄養士とも連携し、排便コントロールを行っている。水分量や活動量が排泄に関わることを考慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には体調の急変に備え、入浴時間は日中に設定している。原則週2回の入浴、体調や状況に応じて部分浴や清拭、更衣等を行い、保清に努めている。	入浴は週2回を基本としているが毎日でも入浴は可能である。必要に応じて2人介助を行っている。入浴できなかったときは清拭や部分浴により対応している。汚染時はシャワー浴で保清に努めている。入浴拒否者は入浴のたびに声掛けをして、一番風呂の声掛け時に上手く入浴できることがある。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活歴も考慮しながらできるだけ日中は活動し、生活のリズムを整えることができるように支援している。食事の後は休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については薬剤師や主治医から効能や副作用について説明を受け、服薬の確認・介助を行っている。症状に変化があった際には速やかに主治医に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から生活歴や嗜好について情報を収集し、好みの活動が継続できるように支援している。天気の良いときにはホーム周辺を散歩し、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候や天気の良いときには散歩をしている。以前は季節に応じて外出行事等を行っていたが、利用者の重度化に伴い、外出行事が困難な状況になっている。	天気や体調を見ながら、個々に車いすの利用者も散歩に出かけている。近くの公園の桜を見に行ったり隣接の施設の花見物に行っている。車いす対応のため、全員の外出は困難であるが、状況を見ながら外出計画を立てて、終息後外出が可能となるように検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は盗難等のトラブルを防ぐため持ち込まないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族との電話の取次ぎや手紙等のやり取りができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は落ち着いた色彩で家庭的な雰囲気になっている。季節に応じた掲示物を作成している。	ホールは落ち着いた感じで、2階は朝日が見え明るい。エアコンを十分に使用し換気や採光、温度等に注意し、濡れタオルを利用して湿度にも配慮している。冬場は加湿器を置いている。壁には季節ごとの手作り作品やカレンダー等を飾り、テレビ・ソファ・椅子があり、利用者は好みの場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのテーブルでは顔見知りの方同士会話をしたり、一緒に活動に参加している。一人になりたいときや活動に参加したくないときには自室で過ごされることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッド、タンス、洗面台、エアコンが備え付けられている。寝具も一式あるが、毛布など使い慣れたものを持ち込むことができる。ご本人が使い慣れた小物や写真など、なじみの物を持参可能になっている。	居室は、全て洋室である。ベッド・タンス・洗面台・エアコンが設置されて、寝具はリースである。一部、電動ベッドがある。個々に毛布などを持ち込み、写真・ぬいぐるみを飾り、居心地よく生活できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、廊下やトイレ、浴室には手すりが設置されている。各居室前に名札を掲示して自分の部屋がわかるようにしている。トイレ、浴室、非常口にもわかりやすく張り紙をしている。生活導線上は整理整頓し、転倒のないように注意している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない